

発刊にあたって

このたび『研究報告集第28巻』を刊行することになりました。ご協力を賜りました関係者の皆様に対し、あらためて感謝申し上げます。

近年、大規模地震や気候変動による自然災害、少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少、独居世帯の増加、社会の多様化など我が国は大きな社会変化の最中にあります。

医療においても、疾病の治癒と生命維持を主目的とする「キュア中心」の医療から、慢性疾患や一定の支障を抱えてもQOL（生活・人生の質）を維持・向上させ、身体的のみならず精神的・社会的な健康を保つことを目指す「ケア」も含めた医療へ向かっています。

また、厚生労働省は、2024年（令和6年）4月から、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」をビジョンとして、国民健康づくり運動「健康日本21（第三次）」をスタートさせ、多世代による地域共生社会の実現に向けて地道な取り組みを進めています。

このような社会変化への対処を踏まえ、全人的な視点で一人一人を大切にする「医療モデル」と、さらにはお互いの健康を支え合うコミュニティづくりや健康格差のないまちづくりを目指す「社会モデル」を併せ持つ統合医療の役割が必要不可欠であると考えます。

本財団は、1991年（平成3年）に設立されて以来、「国内外の医学及び各種の健康法について自然尊重・自然順応の視点で学際的総合的に調査・研究を推進し、人間の備える自然治癒力を生かす医学及び健康法の研究成果を普及する」ことを目的に、事業を継続しています。

具体的には、岡田式健康法を取り入れた統合医療に関する調査研究を積み重ねてきました。また、その研究成果を基に国が推進する国民健康づくり運動や、各自治体で行われている健康増進への取り組みに貢献すべく、講演会やセミナーの開催および広報活動を通して、地域社会に役立つ事業を実施しています。

本巻に収録された「健康」に関する研究論文が心豊かで幸福な個人、家庭づくり、そして、健康なまちづくりに役立つことを願っています。

2025年（令和7年）2月3日